



# みなと

みなと 64号 2021年12月1日  
兵庫県声の図書赤十字奉仕団  
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-4-5  
日本赤十字社兵庫県支部内  
(Tel) 078-241-9889 (Fax) 078-241-6990  
代表者 足利教治  
編集者 高橋晶子

## 兵庫県声の図書赤十字奉仕団に入団して

足利 教治（はあもにい）

私が兵庫県声の図書赤十字奉仕団“はあもにい”グループに入団させて頂いたのは、2014年（平成26年）6月でした。カルチャースクールに1年ほど通い、発声の練習のコースを終え、音訳の勉強をしたいという思いで“はあもにい”グループの会合に、見学のつもりで参加したのですが、即入団となってしまいました。

数日後ファックスが届きました。声のアルバムに収録する“雪”のプログラムの一つで「西條遊児のおじゃましまーす」の原稿でした。西條遊児役の私が質問し、ゲスト役の羽島さんが答えるという掛け合いで、総時間で約15分のプログラムでした。これまで録音経験の無い私には緊張の連続で何をやったか判らないまま録音を終わりました。結果は棒読みで散々の出来で音訳には程遠いものでした。以後マイクの前に立つと特に緊張し、読み間違いが多く何度も読み直して録音を終えるという始末で、15分ぐらいの番組でも後の校正で1時間以上かかるということも度々ありました。

西條遊児さんは、2018年（平成30年）2月に逝去された為、「西條遊児のおじゃましまーす」も終了となりました。約3年半の長きにわたりペアとして辛抱強くご指導いただきました羽島敦子さんはじめ、不出来な音訳ですが広い心で受け止めて頂いている“はあもにい”の皆様には感謝の思いでいっぱいです。

マイク恐怖症？に悩まされながら、細々と音訳の勉強を続けて6年目、2019年に突如、声奉の委員長に就任することになってしまいました。団員の皆様のご協力と周囲の皆様に支えられ、今日まで約2年半続けることが出来本当に有難く思っています。本部の作業を続ける中で、団員として各グループ内での活動の他、いろんな作業に協力頂いて声奉の活動が成り立っていることが判りました。

団員の作業一つは、各グループ毎に“声のアルバム”に収録するプログラムの作成であります。CDを作成しリスナーに貸し出し、返却CDを受け入れるまでの作業も団員の大きな役割であります。

“声のアルバム”については、マザーCDの作成、配布用のCD作成、発送・受入作業、それに付随しているいろんな作業をデイジー班が担当されています。

一方、有志の方が録音し、希望するリスナーに貸し出している“単行図書”は、単行図書検討会が、CD作成から発送・受入作業、管理等を担当。

点字班は、学校講習の支援、点字のお便り解読、図書目録作成等、点字関係の作業を担当。

朗読・音訳を見直す会は、朗読勉強会の開催、朗読・音訳に関する資料作成等を担当。

機材班は、ルーム内のパソコン等機材の保守、買換え等を担当。

等の作業が声奉の活動には不可欠であります。団員の皆様には作業班にも参加して頂き共に声奉活動の推進をお願い致します。

また、支部行事については、街頭募金活動、神戸まつりパレード、1・17炊き出しボランティア他、研修会も年に数回開催されますので、積極的に参加をお願いします。

新型コロナ感染についても、皆様のご協力のお陰で今日まで声奉からクラスターの発生を防ぐことが出来、大変有難く思っています。現在は感染数も低水準に抑えられていますが、油断されないよう引き続き感染予防に努めて頂き、声奉の活動をよろしくお願ひいたします。



## プログラム紹介 「かざぐるま」

(そよかぜグループ)

そよかぜグループは、読売朗読ボランティア（4グループあり、それぞれに重複障がい者への読み聞かせや視覚障がい者への対面朗読、児童養護施設での活動など行っています。）のひとつで、読売新聞社を母体とする「読売光と愛の事業団」主催「読売音訳ボランティア養成講座」の修了生で構成されています。

また、この様な経緯とグループの特異性を持つという事などを考え、「読売新聞」の記事で、「かざぐるま」を録音作成しています。

グループでの活動を通じて、「赤十字社」の成り立ちや活動、意義などを、知ることができ、いろいろと考えさせられました。

奉仕活動というには、微少ですが、ほんの少しでも携われる事を大事にしたいと思います。

そよかぜグループでは、全ての作業をメンバー全員が出来るようにと、割り当て表を作って活動しています。

時間のかかることですが、このコロナ禍、それぞれに健康に気をつけて、無理をせず、自分たちの出来る範囲で努力しています。

松永（そよかぜ）



## デイジー班



### 受け入れ作業アラカルト

Since2008 6月号 来年6月で14年！デイジー班の隅っこで作業させていただくようになっての年数です。各冊子が各々カセットテープ一巻もしくは二巻に収録されていたのがCD1枚になりました。そのCDがリスナーさんより返却されてきた時にする作業“返却受け入れ”一何からどうするの??とまごまごでした。当時とても熱心な方がいらして 時々ミーティングを重ねて手順ができました。単純作業ですが実行してみて、効率、効果を工夫し、足したり引いたりしながら進めています。

今回は、返却されて来た CD と一緒に郵袋に入っている事があるものについてです。

#### ○手紙(墨字 - 点字 - 声):

・アルバムの感想 点字のお手紙で毎回 A4 用紙 10~20 枚の感想を下さるリスナーさん。感服です。

・お礼・希望図書・住所変更・休止中止・新規申込書・聴こえない etc

○他所の CD-組織によっては封筒共に返却不要の所も…リスナーさんの負担を無くす為だそうです。

○リスナーさん個人の CD

○声奉の単行図書

### コロナ

突然コロナという名のウイルスが大暴れ。岡江久美子さん、志村けんさんが亡くなられ、関西でも緊急事態宣言！！一体全体何なの！！で大混乱。大なり小なり大変でなかった人は無いことと思います。出来ることはしておこうと活動休止が緩和された時を見計らって申請し、郵袋を消毒、日光滅菌。写真を御参考。



以上ほんの一部ですが、受け入れ作業アラカルトでした。

孝橋多賀江(青年)

## 点字班



令和3年度地域赤十字奉仕団研修会が10月と11月にありました。今年度は点字の講習を実施したいとの要望を頂き、点字班が協力する事になりました。

点字班が参加するのはZoomが8回、支部7階での対面が2回です。

Zoomは支部と県内の会場を繋ぎ、パソコンでモニターを見ながらの講習になります。支部ではホワイトボードに点字の表を張り、講師はテニスボール位の球体のカメラに向かって説明します。支部の方はカメラを上下左右または遠近と、コントローラーで微調整しながら、ベストな位置を設定します。点字器の6点は大変小さいのでカメラ前まで持っていき、大アップにしました。点筆の持ち方・点字用紙を点字器に挟む等も大アップ。支部と意見交換しながら講習の方法を決めていきました。

地域の会場では、大きなスクリーンにこの様子が映し出されます。また支部の方が3～4人行かれ、点字のサポートをして下さいました。私たちは現地の様子をパソコンで見ながら、実習の「6点のメ」を書く→名前を書く→今日の日付を書く等を、順次進めていきました。現地の支部の方からも進行状況を知らせていただき、50分間スムーズに行えたと思います。現地に行かれないもどかしさはありませんでしたが、名前や日付が書けたのでしょうか、手を叩いで喜んでいらっしゃる方がおられました。

対面での参加者は高齢の女性がほとんどでした。点字器の小さなくぼみを点筆で探すのには苦労されていましたが、「6点のメ」を数個書き終わると、点字表のプリントを見ながら熱心に取り組んで下さいました。「大変なボランティアをされているんですね」との感想も頂きました。

全10回の講師を担当された石田さんお疲れ様でした。支部の皆様には点字班にこのような研修会を経験させていただき感謝申し上げます。ありがとうございました。

門田真弓美（ことばの花束）

### プログラム

- ◎ 「赤十字について」
- ◎ 「災害への備え」
- ◎ 「障がい者が安心して暮らせるまちづくり～点字体験～」



### 地域赤十字奉仕団

赤十字のボランティア活動を通して地域社会に貢献したいという思いを持った人々によって市町ごとに組織されたボランティアグループ



## 朗読・音訳を見直す会

今年度より「朗読・音訳を見直す会」担当となりました。ともしびグループの松村陽子です。

とはいえ、2年近いコロナ禍のため、例会もままならない半年でしたが。

声の奉仕団での活動歴は、もう10年以上になります。高校時代、少し放送部に入っていたこともあり、元々、声にだして文章を読むことは好きでしたので、そういうボランティア活動があると知って講座を受け、参加するようになりました。最初は音訳といえば朗読を連想、わかりやすく明瞭に、標準語に近い読み方をすればいいかなという程度に考えていたのですが、視覚障害者むけに録音するにあたっては「音訳」という方法がマニュアル化されていることを、知りました。



音訳では読み手は、文字で書かれていることを、加えたりまた省いたりすることなくそのまま音声化することが基本で、読み手は黒子的な存在、朗読のように、読み手の個性をだすことは禁じ手です。一方、当時の声奉の録音物は、どちらかといえば朗読に近く、わかりやすく伝えるということを優先して、音訳の枠からは少しそれていることも多々あるように思いましたが、声奉の活動が、単に情報提供にとどまらず、リスナーさんとの交流という側面をもっていることを考えれば、それも自然な流れであるといえるかもしれません。ただ最近では、朗読劇などは別として、次第に音訳に近いものが多くなっているように思います。

これまで10余年、新聞記事やエッセイ、拙い自作の紀行文などを録音したり、また、ほかの方が録音したものを聴かせていただいたりして、様々な文章に接してきました。読み手の理解をより反映した読み方——それは音訳の趣旨からは少し横道にそれたものになりますが——その方が聴いて理解しやすいのではと思ったり、一方で、読み手の感情移入が、聴き手の理解を邪魔する場面があると実感したり。

読み手も様々なら、聴き手も様々、ああかな、こうかなという迷いも大切に続けていけたらなと思える今日この頃です。

松村陽子（ともしび）



## 単行図書検討会



単行図書検討会では、「日赤声のアルバム」に『単行図書だより』という、通常10分程度の小さな冊子の様な図書を毎回掲載しています。内容は、①その月に完成したばかりの新刊紹介、②完成間近な近刊紹介、そして③蔵書の中からのおすすめ図書紹介、で構成されています。また年に一度、その年度中に完成した単行図書をまとめて紹介しています。

今回はその中から“おすすめ図書紹介”について書いてみます。

“おすすめ図書紹介”は当初(2016年10月号～)、『つちのこ』の中で1コーナーとして掲載してもらっていました。その頃にはまだ『単行図書だより』は始まってなかったのです。2017年10月号から『単行図書だより』が「声のアルバム」の仲間入りを果たし、“おすすめ図書紹介”は、その1コーナーになりました。

基本、1回につき3冊程度の図書を3か月間続けて案内しています。紹介する図書は、毎回おすすめポイントを決めて選定します。例えば、昨年度貸出ベスト3、ドキュメンタリー、作家特集、ミステリー、健康関連、心温まる or 背筋が寒くなる作品、テレビドラマ化された作品、等々です。最近では、長年に亘り作成されたシリーズ物も一括紹介しました。

“おすすめ図書紹介”を始めた趣旨は、新刊図書や近刊図書の紹介ばかりではなく、日赤声奉のこれまでの蔵書の中からも紹介していこう、というものです。団員の方々に多大の労力と時間をかけて作成してもらった大切な図書を、たった一度紹介しただけで済ませるのはあまりに勿体ない、より多くのリスナーに、選りすぐりの図書を聞いて頂きたい、という思いからです。

2021年10月末現在、声奉蔵書のデイジー図書は約255冊有ります。そして嬉しいことに、現在進行形でどんどん増えています。

この約2年間、コロナ禍で日赤の活動もままならず、「声のアルバム」も休刊や縮小版、隔月での発行等を余儀なくされている期間も、有難いことに単行図書は、ことばの花束G担当メンバーの発受活動継続のおかげで、聴いて楽しんで下さるリスナー数も、貸出数も増えています。又、団員もステイホームでいつもよりじっくりと録音に取り組めたことも幸いし、単図会の活動は一層盛んになりました。ただ、読み手や校正者が限られているのが悩みの種となってきているのです。

一冊の本を読み通し、校正を何度も経たのちCDとして完成。『単行図書だより』で紹介し、希望リスナーに届き、直接その図書に対する感想のお便りを頂いた時は、音訳者としてとても嬉しく、また励みとなります。

「単行本をいつか朗読してみたい！」と思っている団員の皆さん、どうぞ手を挙げて下さい。お待ちしております。

直田花子(青年)

## リスナーだより



岸田洋子さん 2021.7.29

みな様 こんにちは、楽しく聴かせて頂きました。  
ありがとうございます。出来る体操を教えてください  
うれしいです。  
毎日してみようと思います。  
それから ツチノコ3番目のお話し続きがあるのでしょうか？  
どのように幸せになって行くのか楽しみに  
思います。  
次回をお待ちしております。

香山良樹さん 2021.7.29

声のアルバムありがとうございます。  
ワクチン第一回目うちました。恐くありませんでした。  
二回目の時 若干熱がでるようです。  
私たちのため CD 雑誌ありがとうございます 沢山  
情報お願いします。  
暑さ厳しい折、みな様の健康守られますように。

森山寿美枝さん 2021.8.19 (電話で)

主人が亡くなって一人です。  
ご飯の準備を済ませ、単行図書を聴きながら  
食べます。  
今、はまっているのが、上橋菜穂子さんの  
「守り人シリーズ」です。  
ワクワク、ハラハラが止まりません。次を  
聴くのが楽しみです。  
これからも 推理小説やミステリーをお願いします。

牧野まりえさん 2021.9.30

花時計9月号感想 (中略)  
コロナの折 皆様の私たちリスナーへの  
思いを感じながら聞かせていただきました。  
みんなの歌ベスト10も良かったです。  
私は「おお牧場はみどり」はみんなの歌の  
最初からラジオで聞いてもいたし、鳥取盲  
学校で土曜日夕食後食堂に集まりピアノ  
にあわせみんなで歌ったものです。また近  
所の人たちと春に歌う一曲でもありました。  
コロナのためにこの歌の集まりも休止  
してしまいました。いつになったらみんな  
と歌えるのでしょうか。この歌の集まりは  
私にとって本当に楽しくてあり 色々人  
とお話ができお茶をしてみましたから  
.....



## メーリングリストより

(7/13) だんいんのみなさま、両者の皆様、こんにちは。

かわかみゆうこです。

きゅうしゅうちゅうごくちほう、つゆあけたようですねえ。

あつかったり、きゅうにあめがふつたりのなか、7がつごう ろくおんしていただき、ありがとうございます。

いま、ゆうびんがとどき、みどりのケースあったので、うれしくなりました。

ことしも、やはり、こうりゅうかい、ちゅうしなんですねえ。ざんねんですが、いまのじょうきょうでは、しかたないですよねえ。ゆっくり、cd きかせていただきます。ありがとうございます。

みなさまおからだには、じゅうぶんきをつけてくださいねえ。

(8/2) 岐阜県のかなちゃんです。

日赤声の図書は カセットの時代から 聞かせていただいております。久々に 声のアルバムを 聞かせていただきました。今後も「無理のない範囲で」アルバムを 政策してくださいませ。宜しくお願いします。

まだまだですが、暑さは 続きます。熱中症にかかれませぬように スタッフの皆様も 会員の皆様も くれぐれも 気お付けてくださいませ。(中略)

僕が住んでいる所は 岐阜市内でしてね、長良川の「北側」です。歌で名高い柳ヶ瀬は 岐阜の根、中心地ですよ。地元の人たちは ここをね、川北、と言います。大阪の「南」あたりがね、この柳ヶ瀬と、良く似た 町ですよ。アーケードの中と 言うのかなあ。ここを歩きながら そう思いました。勿論ですが、手引をして貰いました。平成の・初めの頃でした。明日からは「立秋」ですねえ。立秋とはね、名ばかりです。体には気お付けましようね。

(11/10) 皆様こんにちは、神戸の えとう みちこです。

寒くなってきましたね。皆様にはお変わりございませんか？

声のアルバム11月号が届きました。

団員の皆さん、大下さん いつも本当にありがとうございます。

また、ゆっくりと聞かせていただきますね。

なかなか、投稿ができなくて申し訳ありません。

川上さん、いつも色んなお話や、音楽を送っていただきありがとうございます。ハーモニカのレッスン、がんばってくださいね。

田辺さん、お元気そうでなによりです。今はどんな本を読まれていますか？

岐阜県のかなちゃん 初めまして 懐かしい音楽を送っていただきありがとうございます。これからも、よろしく願いいたします。

では、皆様、体調管理に気をつけて暮らしましようね。

(11/10) たなべです。こえのおたより、11がつごう、とどきました、ありがとうございます。だんいんのみなさま、ほんとうに、ごじんりよくいただき、ごくろうさまですね まだみんなわ、きけてわ、いませんがたのしみにして、きかせていただきますよ、あしかがさんや、おおしたさん、すがわらさんほか、おなあまえわ、わかりませんが、よろしくおつたえくださいまた、いつも、かわかみさん、たかせさん、えとうさんや、ぎふけんの、かまちゃん、ほか、いつも、たのしみにして、めいるわ、きかせていただいていますよ これからわ、ほんかくてきに、さむさも、やっつけますどうぞ、おげんきで、みなさま、おすごください



## 花時計 プログラム

### 花時計 2021年 7月号

#### 神戸YWCA

1. 中国で日本の小学校の給食が  
大きな話題となっている
2. 京都ものがたりの道 第六回目  
飛・河原町通り 街・千本通
3. 作家の口福 奥泉 光 「パンを焼く」
4. 椅子に座ってストレッチ

### 花時計 2021年 9月号

#### ことばの花束

1. Be My Eyes
2. つぶやく短歌 コロナの時代に
3. 北海道の愛すべき鉄道によせて
4. 信州にある小さな美術館「無言館」
5. 朗読 向田邦子著「字のない葉書」
6. 今こそ！ 聴きたい みんなのうた
7. お便りコーナー

### 花時計 2021年 11月号

#### ともしび

1. 神戸に残る加納宗七の足跡  
生田川付け替え
2. 岡本「フロイン堂」  
食パンを作り続けて80年
3. 五色塚古墳の歩み
4. かまぼこ男子 洒脱な70歳
5. 兵庫「御座候」社名に由来
6. 佐藤愛子著「何がおかしい」より  
「怒り顔」
7. お便りのご紹介



#### 編集後記

当初 今回の「みなと64号」では、今年度の日赤金色有功章表彰該当者の方々に原稿をお願いする予定でしたが、私の不手際により叶わず、「困った時の神頼み」ならぬ「委員長頼み」となりました。足利委員長、本当にありがとうございました。

「声のアルバム11月号」も縮小版でなく完全版として発行されました。コロナ禍の困難な中でも、着実に実を結んでいくみなさんの活動が、来年こそより大きな花を咲かせられますように！